



ふるさと御所

文化財探訪

其の十五

古墳時代〈3〉

前期古墳の埋葬主体
竪穴式石室
と粘土槨

生涯学習課 文化財係

☎内線696

3世紀後半に築造された桜井市箸墓古墳の後円部墳頂には板石が散乱しており、竪穴式石室が採用されたとみられています。同じ纏向墳墓群・古墳群で、先行して築造された弥生時代末期のホケノ山墳丘墓は、石囲い木槨という、棺を二重構造とし、周りに石を積んで木蓋で天井を閉じるというものです。すから、箸墓古墳は古墳時代の始まり



写真2 黒塚古墳の竪穴式石室南小口付近
(転載許可: 奈良県立橿原考古学研究所)

にあたり、近畿地方で最初に竪穴式石室を採用した墳墓と評価されます。

竪穴式石室(写真1)は、天井を閉じると完全に密閉されます。また、石室の上を厚く粘土で覆っています。その石室内に納められる棺は、2本のコウヤマキの巨木の内部を削り抜き、身と蓋とすることが通有です。さて、竪穴式石室では粘土棺床の上に木棺を納めるのと同時進行で石室を築いていきます。写真2の赤い矢印より下はやや厚みのある塊石が、矢印より上は板石が用いられていることがお分かりいただけるでしょうか。

矢印から下の石室は、棺の身の高さに合わせて構築されたものです。この面でいったん石室の構築を中断し、死者を棺に納め、さまざまな遺物を棺内に副葬します。次いで棺に蓋をして被葬者が見えなくなった状態で、棺外の副葬品を納めます。そして背後を石と土で固めつつ、矢印から上の板石を急角度で持ち送りながら構築し、最後に

天井が閉じられます。天理市黒塚古墳に見られるように竪穴式石室の場合、天井石は非常に小型の石材であったり、ときには天井石と言えぬものは特になく、両側の壁面が自然と組み合わさって閉じられてしまうことも少なくありません。このような構造の竪穴式石室の内部は、巨大な棺身・棺蓋によってほぼ占有されるため、実際には今見られるような空間はほとんどありません。

さて、4世紀中葉になると、石室を構築せずに棺全体を粘土で覆ってしまう粘土槨(写真3)と呼ばれる埋葬施設が登場します。一見、異様な構造のようですが、竪穴式石室内部には本来ほとんど空間がなかったことに加え、その石室もまた粘土で厚く覆われることからすれば、竪穴式石室の省略形として、当時においては格や規模のやや劣る古墳に用いられる傾向のある粘土槨が、棺を密封する形の埋葬主体として登場することは、当時の人々にとっては自然な発想の延長上にあるといえるでしょう。



写真3 粘土槨の棺外遺物を取り上げた状態
(鴨都波1号墳調査概報、2001年、学生社から転載)

編集後記

市民集会で感動しました。まさか、生の「ラシャキオピアンガ」をアザレアホールで聴けるとは夢にも思いませんでした。記念公演で山本かずみさんが熱唱した「ラシャキオピアンガ(私を泣かせてください)」は、十字軍とイスラム教徒の闘いを描いたヘンドルの歌劇「リナルド」の中で、ヒロインが悲劇的な運命を嘆く場面のアリアで、実は私の最も好きなアリアなのです。その悲痛な心情やヘンドル特有の敬虔な雰囲気、私をいつも涙ぐませてくれます。山本さんの歌唱は、深い悲しみの中にも確かな希望の光が見えるような、素晴らしい歌声でした。(久)

